

とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設番号：66-1430

施設名：ChaCha Children Daikanyama

施設住所：渋谷区恵比寿西 2-13 - 5

法人名：社会福祉法人 ChaCha Children & Co.

1. 活動のテーマ

○テーマ

持続可能性— 身体・健康・運動を起点とした探究 —

○テーマの設定理由

当園のコンセプトである「持続可能な未来の主役を育む。」という理念に基づき、子どもたちが身体や五感を使った体験を通して、自分自身や他者、地域とのつながりを感じながら学びを深められるよう、本テーマを設定した。乳児期は、安心できる人との関わりの中で、触れる・見る・聞く・味わうなどの経験を重ね、自分と環境とのつながりを感じていく時期である。また、成長に伴い、身体を動かす心地よさや健康への関心も深まっていく。恵比寿・代官山という地域環境を活かしながら、遊びや生活、運動、食、地域との関わりを通して、子どもたちの「やってみたい」という思いを起点に探究を重ね、持続可能な未来につながる力を育てていきたいと考えた。

2. 活動スケジュール

【4月～6月】

新しい環境の中で、身体を使った遊びや五感を使った探索活動を行った。各クラスで、運動遊びや素材遊び、生き物との関わり等を通して、「触ってみたい」「やってみたい」という興味関心を引き出した。

【7月～9月】

継続的な活動を通して、子どもたちが自分なりの身体の使い方や表現方法を試す姿が増えていった。絵の具遊びや身体表現、生き物の観察等から、友達との関わりや模倣、対話を通じた探究へと活動が広がった。

【10月～12月】

運動遊びや地域との関わりを通して、自分の身体や健康、命への興味が深まっていった。虫の飼育や地域活動等から、「どうして?」「なぜ?」と考える姿や、自分自身の成長や暮らしとのつながりを感じる姿が見られた。

【1月～3月】

これまでの経験を活かしながら、自分たちで遊びや活動を発展させる姿が増えていった。友達と協力しながら考えを共有したり、身体・健康・地域とのつながりについて自分なりの気づきを深めたりする姿につながった。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

子どもたちが継続的に身体を動かしながら探究できるよう、発達や活動内容に応じた運動遊具や環境を整備した。大型ブロックや巧技台、跳び箱、鉄棒、平均台、ミニコーン、アクティブプレイクッション等を導入し、登る・渡る・跳ぶ・くぐるなど、多様な身体の動きを日常的に経験できる環境を構築した。子どもたちは繰り返し挑戦する中で、自分なりの身体の使い方や遊び方を発見していた。また、フレックスハードルやボール、カラー竹馬等も活用し、友達と関わりながら身体を動かす経験や、「どうしたらできるだろう」「一緒にやってみよう」といった主体的な探究につなげた。さらに、サンドアートや香りを使った絵具活動など、五感を活用した体験や表現活動も取り入れ、身体感覚と表現活動がつながる環境づくりを行った。

4. 探究活動の実践

〈活動の内容〉

【シード】

身近な素材や遊具に触れながらハイハイやつかまり立ち等を通して身体を動かす心地よさ、五感を使った探索を行った。

【ソイル】

絵の具を使った表現活動や様々な運動遊びを通して、自分の身体の動きと表現やバランス感覚とのつながりを探究した。

【クレイ】

動物への興味からフィギュア観察や動きの模倣、身体表現活動を行い、動物と自分の身体の違いや特徴について考えた。

【リーフ】

カブトムシの飼育や虫のなりきり遊び、運動遊びを通して生態への興味を深め、生命の循環や自分自身の成長について探究した。

【スカイ】

運動遊びや地域の方とのコミュニケーションを通して、自分の身体や健康への理解を深めるとともに、友達や地域とのつながり、持続可能な暮らしについて考えた。

〈活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり〉

【シード】

保育者との安心した関わりの中で、マットや大型ブロックに触れたり、ハイハイやつかまり立ちを繰り返したりしながら、自分の身体を使って探索を楽しむ姿が見られた。興味を持った素材に自ら手を伸ばし、手触りや動きの違いを確かめながら「あっ」「んー」と声を出していた。保育者は「触るとどんな感じがする?」「こっちはどうかな?」と、子どもの視線や動きに合わせて問いかけを行い、子ども自身が感触や身体の動きの違いに気付けるよう関わった。また、友達の動きを見て同じように身体を動かそうとする姿も見られ、他者への興味や模倣へとつながっていった。

【ソイル】

絵の具を使った表現活動では、指先や手のひら、腕全体を使いながら、自分の身体の動きによって線や形が変化することを楽しむ姿が見られた。「ぐるぐるになった」「いっぱいついた」と、自分の動きと表現を結び付けながら、繰り返し試す姿もあった。また、一本橋などの身体運動では、「どうやったら渡れるかな？」と身体のバランスを意識しながら挑戦していた。友達の動きを見て真似をしたり、自分なりに身体の使い方を変えたりする姿も見られた。保育者は「指で触れるのと、手の平をで使うのは違う？」などの問いかけを行い、子どもたちが身体の動きや感覚の違いに気付けるよう関わった。

【クレイ】

動物への興味から、フィギュアをじっくり観察したり、動物の動きを模倣したりしながら身体表現活動を行った。「ライオンはこんな歩き方かな？」「うさぎみたいに跳べるかな？」と、自分の身体を使って試す姿が見られた。活動を通して、「なんで四つ足なんだろう」「人はこうやって歩くね」など、動物と自分たちの身体の違いや動き方に気付く姿もあった。友達同士で動きを見せ合ったり、「もっとこうじゃない？」と伝え合ったりする中で、巧技台やマットを使っての表現や探究が広がっていった。保育者は「どこを使って動いているかな？」「人と動物は何が違う？」と問いかけを行い、子どもたちが身体の仕組みや自分自身の身体への理解を深められるよう関わった。

【リーフ】

カブトムシの飼育を通して、「なんで土にもぐるの？」「何を食べているんだろう？」と生態への興味を深める姿が見られた。観察を重ねる中で、角の使い方や足の動きにも関心を持ち、「カブトムシはこうやって歩くかな？」「バッタみたいに跳んでみよう」と、虫の動きを身体で表現するなりきり遊びや運動遊びへと発展していった。自分の身体をどのように動かすと虫らしく見えるかを試しながら、友達同士で動きを見せ合う姿も見られた。その後、飼育していたカブトムシが死んだ際には、「もう動かないね」「どうして死んじゃったの？」と命について考える姿が見られた。一方で、土の中から卵を発見したことで、「赤ちゃんがいる！」「また生まれるのかな？」と、生命の循環への気付きにつながっていった。さらに探究は、自分自身の命や成長への興味へと広がり、保護者の方に協力していただきながら、自分が生まれた時の写真やエピソードに触れる活動へと発展した。「こんなに小さかったんだ」「みんな赤ちゃんだったんだね」と、自分自身のこれまでや成長を感じる姿が見られた。保育者は「どうしてこんな動きをするんだろう？」「人と虫の身体は何が違うかな？」「みんなも赤ちゃんだったよね」と問いかけを行い、虫の生態だけでなく、自分自身の身体や命についても考えられるよう関わった。

【スカイ】

運動遊びや挑戦活動を通して、「前よりできるようになった」「もっと速く走りたい」など、自分自身の身体の変化や成長を感じながら取り組む姿が見られた。また、友達と協力して遊びを進める中で、「どうしたらみんなのできるかな？」「こうしたらやりやすいよ」と声を掛け合いなが

ら、自分たちで遊びを発展させていた。活動を重ねる中で、子どもたちは身体を動かすことと健康とのつながりにも関心を持ち始め、「いっぱい動くと汗が出るね」「疲れた時は休むと元気になる」など、自分の身体の状態について考える姿が見られた。また、散歩や地域活動、ごみ拾い等を通して、「街がきれいだと気持ちいい」「みんなが使う場所だから大事にしたい」と、自分たちの暮らしや地域環境への意識も広がっていった。保育者は「どうして身体を動かすと気持ちいいんだろう?」「みんなが過ごしやすくするには何ができるかな?」と問いかけを行い、子どもたちが身体・健康・地域とのつながりを自分なりに考えられるよう関わった。また、友達との対話を通して、多様な考えに触れながら探究を深めていく姿につながっていた。

〈活動中の写真〉



5. 振り返り

〈振り返りによって得た保育者の気付き〉

今年度は「持続可能性 — 身体・健康・運動を起点とした探究 —」をテーマに、全クラスで日々の生活や遊びの中から探究活動を行った。乳児クラスでは、触れる・動く・感じるといった身体感覚を通して、自分と周囲の環境とのつながりを感じる姿が見られた。幼児クラスでは、身体を使った表現や運動遊び、生き物との関わりを通して、自分自身の身体や命、健康、他者との違いについて考える姿へと探究が広がっていった。

活動を通して、子どもたちは「どうしてこうなるのだろう」「どうやったらできるかな」と、自ら考え、試し、繰り返し挑戦する姿を見せていた。また、友達の姿から刺激を受けたり、対話を通して新たな気付きにつなげたりするなど、探究が個人の体験だけでなく、他者との関わりの中でも深まっていく様子が見られた。保育者は、子どもたちの興味関心や身体の動き、言葉を丁寧に捉えながら、「なぜ?」「どうしたら?」といった問いかけを重ね、子ども自身が考えを深められるよう関わった。また、活動記録や振り返りを通して探究の過程を可視化し、継続的な活動へとつなげていった。身体を通じた経験は、自分自身への理解だけでなく、他者や地域、自然とのつながりへと広がっていった。今後、子どもたち一人ひとりの「やってみたい」という思いを大切にしながら、持続可能な未来につながる探究活動を継続していきたい。